

委員質問・意見等

第 112 回定例会 (10 月 3 日) 受付分

● 資源エネルギー庁 に対する 質問

電力会社以外からの発電・自家発電の量がわかったら教えてもらいたい。

第 112 回定例会後 (10 月 17 日) 受付分

● 東京電力 に対する 質問

■ 真殿坂断層に関する質問

1. 地形的には、中央丘陵（小木ノ城背斜）と西山丘陵の間に平野（出雲崎西越・和島の平野と刈羽柏崎の平野）がある。地質構造としては、西山丘陵東側と平野の間に真殿坂断層がある。中央丘陵の西側と平野の間に常楽寺断層がある。断層位置に関して、この認識で良いか。
2. 東京電力は、真殿坂断層は原発敷地近傍では、刈羽村滝谷から、敷地南東部を経て日本海に至り、敷地内では向斜となっていると主張しており、国（原子力安全・保安院）はその主張を認めている。この認識で良いか。
3. 中越沖地震後の東電調査と調査結果に関して
中越沖地震後、東京電力は原発敷地の北側（ML08-1）と南側（ML08-2）で物理探査を実施し、真殿坂断層は寺泊層中の S タフまでで地下深部に至っておらず（グリーンタフは切っていない）、地震を起こす断層ではないと評価している。例えば 2012.8.10 の東京電力「柏崎刈羽原子力発電所敷地内の地質・地質構造について」の P18～P20。この認識で良いか。

4. 歪み集中帯の調査、東山―三島測線の地下探査

2004 新潟県中越地震・2007 能登半島地震・新潟県中越沖地震の発生を踏まえ、国は「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」を2008（H20）～2012（H24）の5ヶ年計画で開始し、2010（H22）には、原発敷地の北約10kmの東山～三島測線の物理探査を行ないその結果を公表している。

文部科学省の科学技術試験研究委託事業による委託業務「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」として（独）防災科学技術研究所を中心に、このひずみ集中帯の活構造を明らかにし、ここで発生する地震のメカニズムを解明するとともに、震源断層モデルを構築します。（独立行政法人 防災科学研究所 HP より）

平成22年の報告書には地下断面図がある。この地下断面図ではグリーンタフの断層変位はkm単位となっている（P225）。そして反射法地震探査断面と速度構造断面の地質構造解釈（P226）では中越沖地震の震源から海側に至る余震分布と陸側の真殿坂断層添いの余震分布が表示されている。この認識で良いか。

5. 3と4から、東京電力と国の調査結果に著しい相違（グリーンタフを切っているか否か等）があることになる。国の調査結果から東京電力の判断を改める必要があると考えるがどうか。

6. 東電の調査は2008年、国の調査は2010年であり結果公表から相当の時間経過がある。東電の2012.8.10報告は当然国の2010年の調査結果を踏まえたものでなければならぬと考える（東電が自説を主張するなら国の調査結果に反論しなければならない）。経過の説明をもとめる。

7. 国の調査結果と東電見解の矛盾をどうするのか。

● 規制庁 に対する 質問

敷地を貫く真殿坂断層の従前の保安院評価は、国の調査を踏まえて見直す必要が生じていると考えるがどうするか。

参考資料として、東電の2012.8.10報告と国の2010年度報告（東大地震研担当）[※]を添付する。

※別紙参照

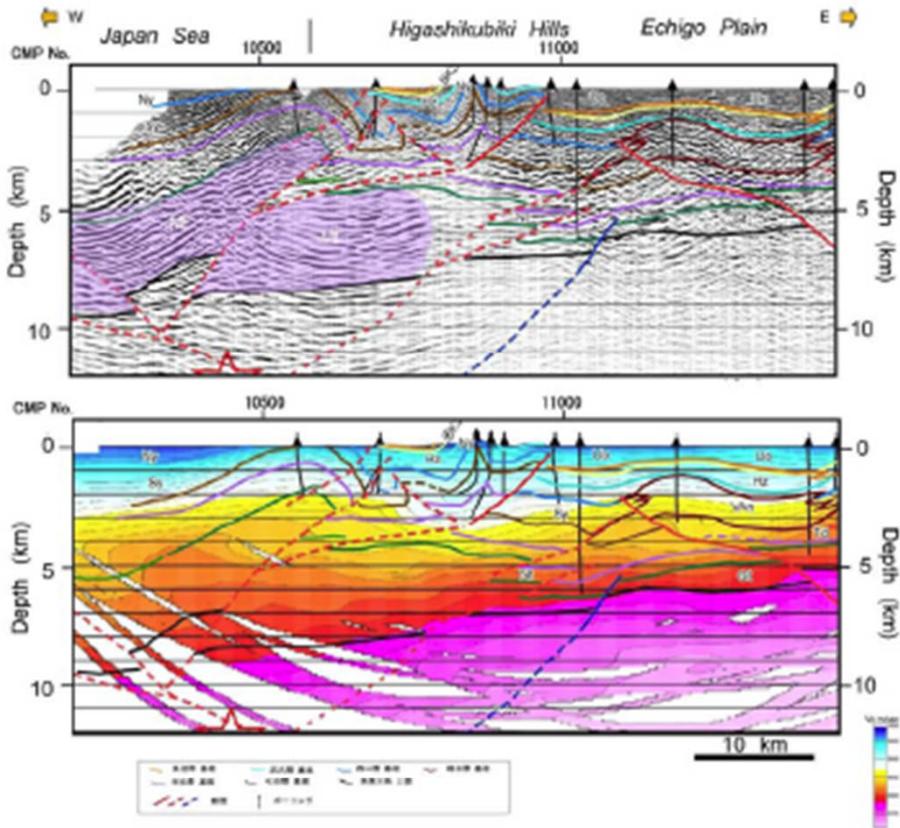


図 35 測線西部(越後平野東縁から日本海)の地質学的解釈。
上図で紫色に塗色した部分は反射面に富むグリーンタフ。